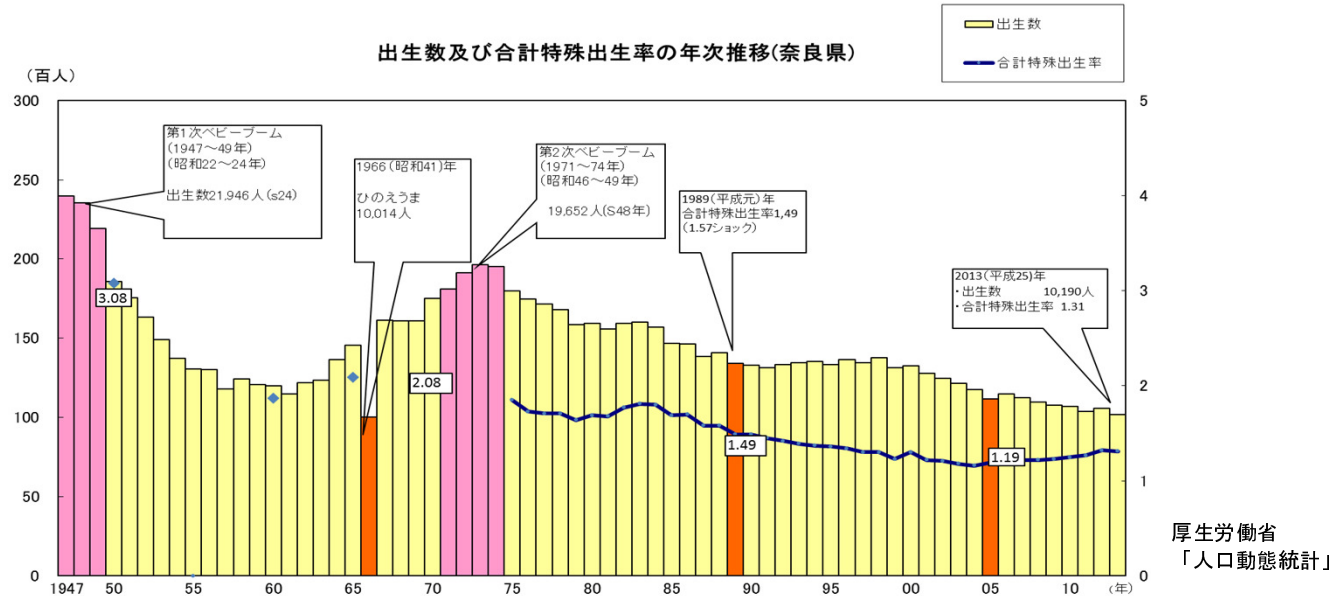


(仮称)「奈良県少子化対策プラン」の策定について

1 出生率の現状

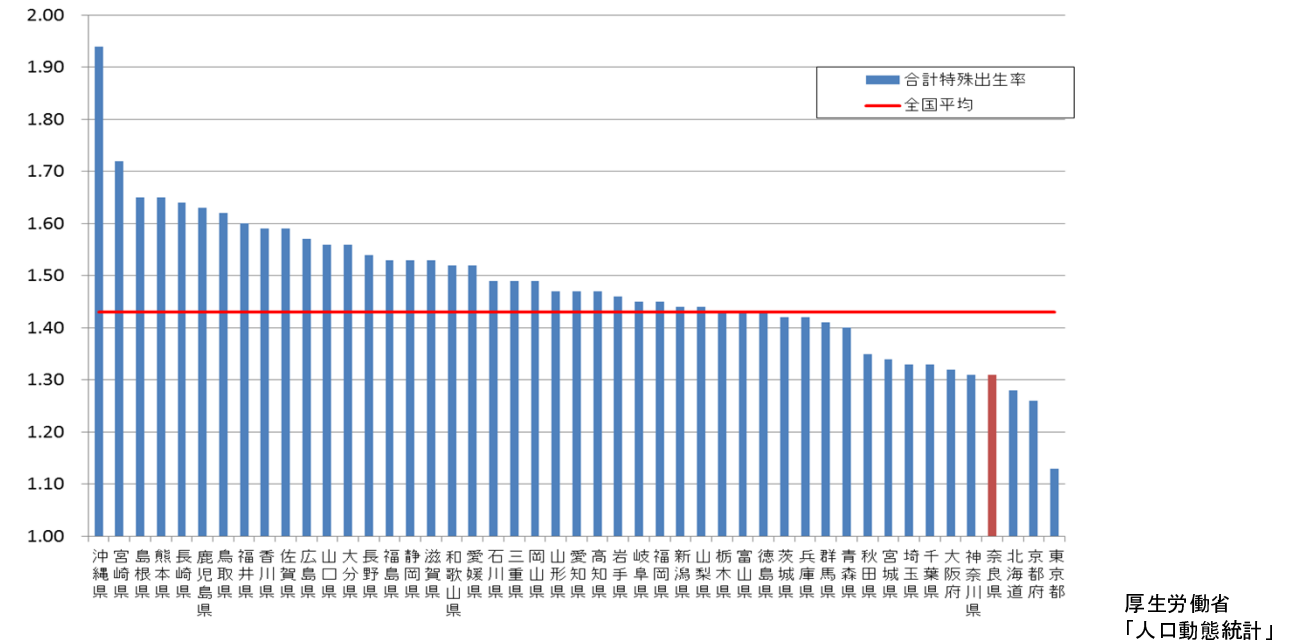
(1) 出生数及び合計特殊出生率の推移(奈良県)

- 奈良県の出生数は、全国と同様に、第2次ベビーブーム以降、微増はあるものの減少傾向が続いている。
- 合計特殊出生率は、平成16年から24年まではわずかではあるが上昇傾向。平成25年は0.01減少し1.31。



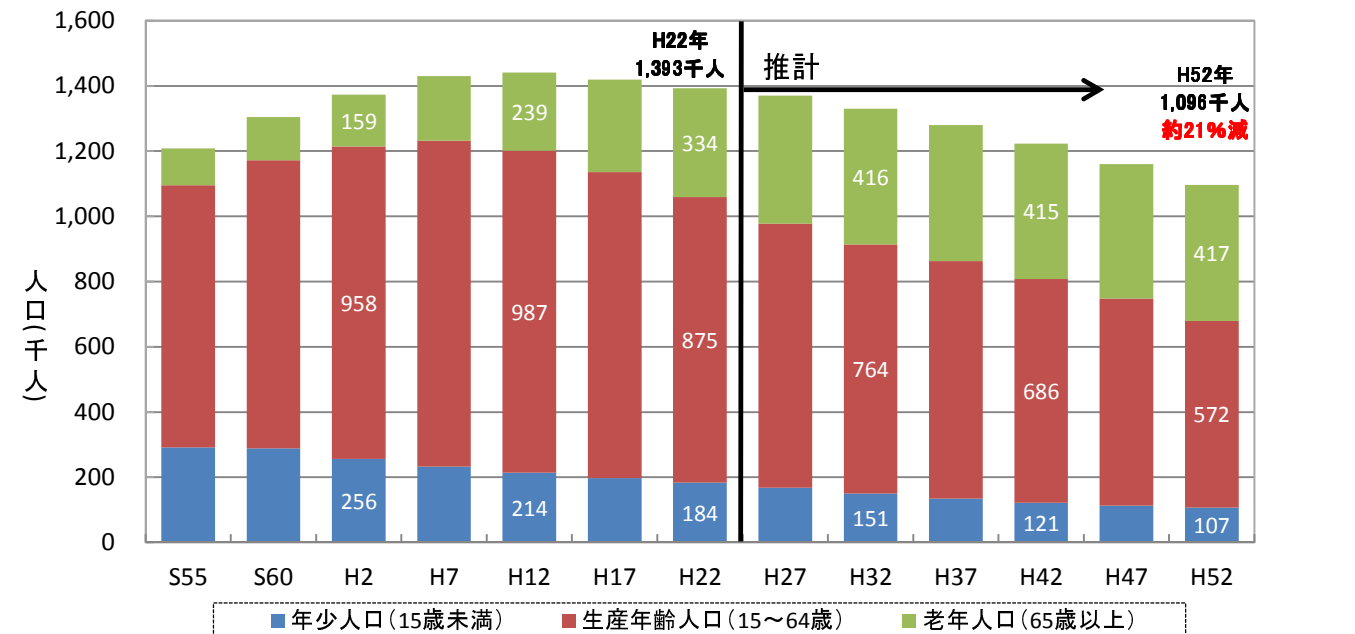
(3) 都道府県別合計特殊出生率(平成25年)

- 全国の合計特殊出生率の1位は沖縄県、2位は宮崎県。ワースト1位は東京都、2位は京都府。
- 奈良県は、北海道に次ぎ全国ワースト4位。



(2) 人口推移と将来人口推移(奈良県)

- 平成22年の奈良県人口は約139万3千人。その内、生産年齢人口は約87万5千人(人口の約6割)。
- 平成52年には、奈良県人口は約109万6千人になり(対平成22年約21%減)、その内、生産年齢人口は約57万2千人(人口の約5割)に減少する見込み(対平成22年約35%減)。



(4) 市町村別合計特殊出生率(平成20~24年・5年平均)

- 合計特殊出生率の1位は香芝市、2位は十津川村。逆に、ワースト1位は平群町、2位は上牧町。
- 数値の高低について、北部・南部といった地域による偏りは見られない。

